

WHO Covid-19 Research Database の紹介と活動

ーパンデミック禍でのコロナ関連情報サービスー

眞喜志まり¹⁾、黒沢俊典²⁾、松田真美²⁾

1) 東邦大学、2) 医学中央雑誌刊行会

未曾有の感染症が流行する中での暮らしが始まって 3 年、私たちの生活は未だに新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。全く情報がなかった 2019 年の流行当初に比べると、世界中の研究者や医療従事者が情報を共有しながら、この事態に対応するためこのウイルスの特性や感染予防・治療策を検証してきた。また、いち早い情報流通ルートとしてプレプリントも活用されるようになり、特に新型コロナウイルスに関する研究情報は爆発的な量とスピードで流通している [1]。

この中で 2020 年 1 月初旬、WHO Library and Digital Information Networks Librarian の Tomas Allen John 氏 (以下、Tomas) と Jose Garnica 氏が新型コロナウイルスに関する情報収集を開始し、同月末には WHO ホームページ上にリストで提供するようになった。その後同年 4 月、BIREME と共同で、検索可能な二次情報データベース (一部一次情報も含む) として WHO Covid-19 Research Database [2]を開発した。そして、Tomas 氏による Medlib-L へのこのデータベース (以下、DB) の紹介ポストをきっかけに WHO Library の活動を知り、日本からの報告も世界に共有できないかと考え、日本の医学研究情報を二次情報 DB として整備している医学中央雑誌刊行会の松田氏と黒沢氏に協力を相談した。また、Tomas 氏らにコンタクトを取った。その後から現在まで、WHO Independent Consultant の Kavita 氏への書誌提供を亀の歩みながら続けていくことができた。

本発表では、WHO Covid-19 Research Database の活動および特徴について紹介し、書誌提供に至った経緯や考えについて報告する。

【謝辞】 不慣れな書誌作成作業をフォローしてくださり、作成した書誌の確認・修正の後 WHO Covid-19 Research Database へのアップロード作業をされている Kavita U.Kothari 氏 (Independent Consultant for the World Health Organization) に、この場を借りて感謝の意を表します。また、会としての新型コロナ関連情報サービスを始める準備もある中で先行して、さらに Paywall を越えて貴重な書誌情報の提供にご協力くださっている医学中央雑誌刊行会に心より感謝申し上げます。

1. Khan H, Gupta P, Zimba O, Gupta L. Bibliometric and Altmetric Analysis of Retracted Articles on COVID-19. J Korean Med Sci. 2022 Feb 14;37(6):e44.
2. WHO Library. the WHO Covid-19 Research Database : Global research on coronavirus disease (COVID-19) [cited]. <<https://search.bvsalud.org/global-literature-on-novel-coronavirus-2019-ncov/>>.